

原稿校了後の前兆変化について

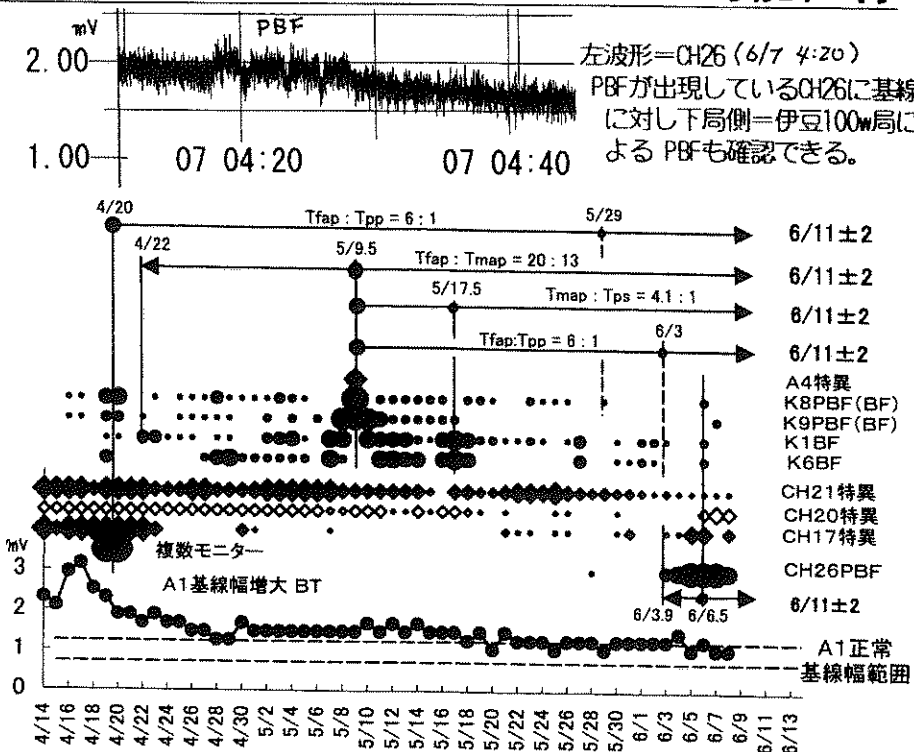
八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No. 1778 長期継続特殊前兆 6月11 or 12日発生の可能性有

前情報で、2008年07月より出現しだした観測歴上最長継続前兆=No.1778前兆の対応地震活動が、06月11又は12日に発生する可能性が否定できないことを報告致しました。

また5/24に極大認識できる火山帯近傍地殻地震前兆も6/11±活動開始の可能性が示唆されます。火山帯近傍地殻地震前兆とは、2014, 11/22発生の長野県北部地震M6.7や本年4/14から発生の熊本地震M6.5 M7.3他地震活動の前兆と同型前兆です。通常の前兆(BF, PBF, BT, 特異)とは異なり、基線が数十分~数時間かけて山型に変動し、変動面積と規模との間に相関が認められます。対応震央域は(火山の活動の有無に関係無く)火山帯近傍領域で、震源の深さが通常の前兆(震源深さ約10~20km)と比べ非常に浅い(震源深さ約3~10km)のが特徴です。熊本地震では、前兆初現~極大:極大~発生=2:1の関係で活動開始が認められる群発地震経験則で発生致しました。

今回の5/24極大の火山帯近傍地殻地震前兆は、4/18初現~5/24極大が認識され、現在前兆は極めて微小となっていることから、群発経験則使用で6/11±発生の可能性が示唆されます。火山帯近傍地殻地震前兆は、知領域円が大きいため、推定領域は大きくなります。さらに影響局も複数あるため、今回は九州領域と北陸近畿の2種の領域が求められました。しかし熊本地震前兆とは前兆形態もTmap日数も異なります。(熊本地震のTmap=13日)更に現在のNo.1778前兆第16次~7からも6/11±発生の可能性が示唆されるため、火山帯近傍地殻地震前兆もNo.1778前兆と同一活動前兆である可能性を考えた次第です。



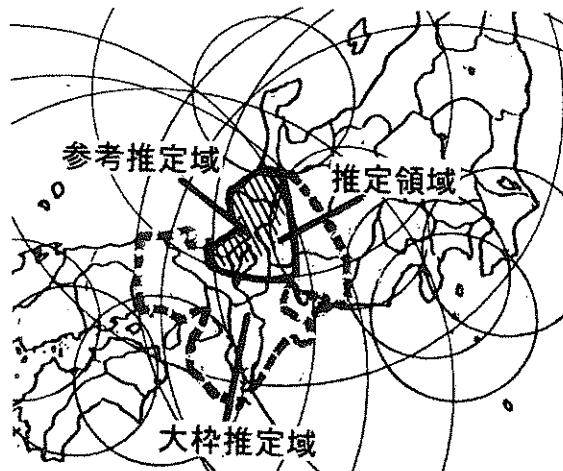
また6/4より明確なPBF(連続BF)前兆が八ヶ岳のCH26に出現し、(微弱には6/3.9より出現)6/8夕刻現在も断続的出現が認められます。CH26-PBFは既に約100時間以上継続出現が計測でき、M7.6±相当を示します。上前兆出現図で、一度終息した前兆(例えばK8, K9等)が再び6/6に再出現していますが、6/6or7のみの出現であることから、CH26-PBF極大に対応して出現した可能性が考えられます。この認識が正しい場合CH26-PBFに対応して出現した可能性のあるCH17, 20等前兆は6/10未明迄

出現する可能性があります。

前兆はまだ出現中ですが、現在の前兆状況からは前述の様な認識が考え易く、否定根拠も無いため、6/11 or 12発生の可能性は否定できません。

確認は6/10と推定発生日前日となりますため、6/11±の可能性も十分あり得ますことを報告させて頂きました。6/12段階で前兆継続の場合は再考して続報で報告させて頂きます。

- ◆推定領域: 右図
 - ・大枠推定領域=点線領域内
 - ・推定領域 =太線領域内
 - ・参考推定領域=斜線領域
- ◆推定規模: 最大M7.8 ± 0.5 (他中規模地震多数)
 - (又はM6.7 ± 0.5を主とした群発的)
 - (中規模地震多発活動の可能性も有。)
 - ※火山帯近傍地殻地震前兆が同一の場合は、群発地震経験則が成立するため、多数地震発生の可能性有
- ◆推定時期: 6月11日 or 12日
 - (※6月12日時点で前兆継続の場合は上)
 - (記時期発生は無く、より先となる。再考)
- ◇推定地震種: 震源浅い陸域地殻地震
 - (多数地震発生の可能性有)
- ◇推定発生時刻: 午前9時 ± 1 (又は午後6時 ± 3)



※CH26-PBF=新居浜局・伊豆局両方で出現している可能性があるため、大枠推定域は両局からの推定域重複域とした。火山帯近傍地殻地震前兆が同一の場合は上推定領域内でも斜線域が考え易くなる